

福島県病害虫防除所より9月2日付けで「令和2年度病害虫発生予察情報 注意報第7号」が発表されました。モモせん孔細菌病の発生は、県内全域で平年より多くなっています。

発病葉からの感染により翌春の春型枝病斑の多発が懸念されます。越冬菌密度の低下を図るため、秋期防除を徹底し、次年度の発生防止に努めましょう。

1 モモせん孔細菌病の発生状況

- (1) 7月下旬の果実での発生ほ場割合は、平年より高く、過去10年で最も高い数値でした。また、発病果率の高いほ場も見られました(図1)。
- (2) 8月下旬の新梢葉での発生ほ場割合は、平年より高く、過去10年で最も高い数値でした。また、発病葉率の高いほ場も多く見られました(図2)。

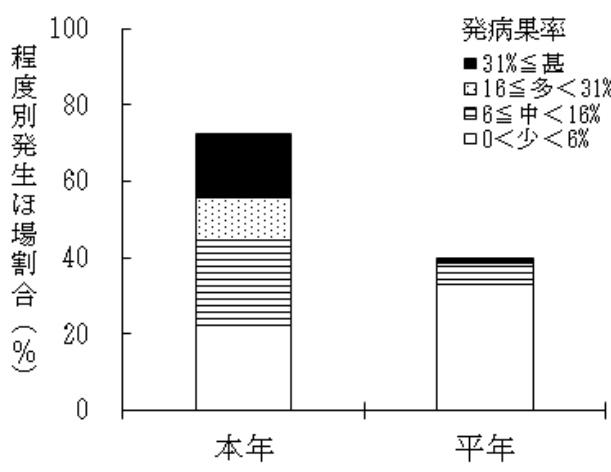


図1 果実での発生状況(7月下旬)
(調査地点: 県北9園地、伊達9園地)

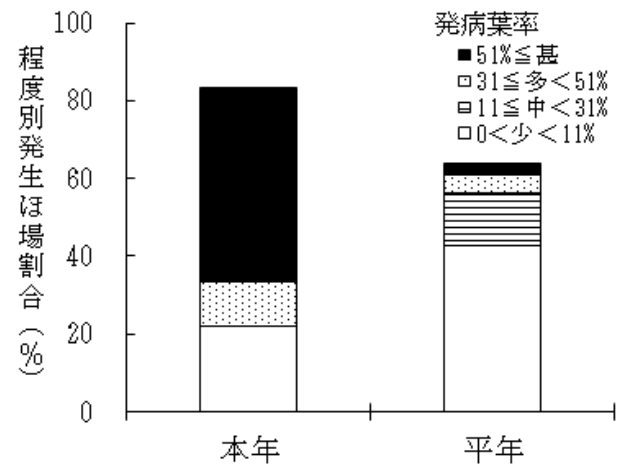


図2 新梢葉での発生状況(8月下旬)
(調査地点: 県北9園地、伊達9園地)

2 防除対策

仙台管区气象台発表の東北地方の1か月予報(令和2年8月27日発表)では、降水量は平年より多いと予想されています。

モモせん孔細菌病の病原細菌は、9月以降に落葉痕などから新梢に侵入して越冬し、翌春に春型枝病斑を形成します。そのため、この時期に防除を徹底し、病原細菌の侵入を防ぐことが重要となります。

(1) 秋期防除の徹底

- ア 9月上旬以降、2週間間隔でボルドー液などの銅剤による秋期防除を3回実施しましょう。
- イ 秋期防除は、事前に秋季せん定を行い、薬液がかかりやすいようにし、散布ムラがない丁寧な散布を心がけましょう。
- ウ 台風等強い風雨が予想される場合は、落葉痕からの感染が多くなるため、台風通過前等に防除を実施しましょう。
- エ 使用する薬剤は地域の防除暦等を参照し、農薬使用基準を遵守してください。また、薬剤によっては高温時等の散布は薬害を生じるおそれがあるので注意してください。

(2) 物理的防除等の実施

- ア 風当たりの強い園地で発生しやすいため、防風対策が重要です。台風が発生の多い季節を迎えていますので、防風ネットをすでに設置している園地では、展張し網の点検・補修を行いましょ。防風ネットを設置していない園地では、次年度に向けて設置を検討しましょ。
- イ 樹勢の弱い樹で発生しやすい傾向にあるため、肥培管理などにより樹勢の維持を心がけましょ。
- ウ 雨よけ栽培は防除効果が高いため、例年発生が多い園地では導入を検討しましょ。

////////////////////////////////////
病害虫の発生予察情報・防除情報
////////////////////////////////////

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、参照してください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬の散布は使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょ。

////////////////////////////////////

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下の URL より他の農業技術情報等をご覧いただけます。)

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>